



## 『お木曳き (おきひき) 行事 (伊勢神宮)』

『エンヤ エンヤ エンヤ エンヤ』1000名を余る人々が遷宮(せんぐう)の用材を引っ張ります。山から切り出された丸太を台車に乗せ外宮(げくう)の鳥居前の広場まで運びます。参加者は白装束に身を包み、赤い色は鉢巻の日の丸、黒い色は法被(はっぴ)の第六拾貳回神宮式年遷宮と書かれた文字です。

用材を載せた2番車から200m余り、白い縄の両脇に並んで曳きます。紺色の首からぶら下げた木札に『宮』の字と二つの木玉が入っています。4列は右端から『伊』『勢』『神』『宮』、縄の先頭から4ブロックに分かれ、私たちは『宮』の2ブロック、こんな事柄を木札が表示しています。説明を受けた時なぜ?こんなにまで?と疑問に思いましたが、白装束の大集団です、もちろん迷子もたくさんでるようです。



9時30分の開始前に結団式。ハンドマイクを持った木遣り(きやり)のリーダーが掛け声の練習、『兵庫県・姫路神社・諏訪神社』一行と紹介します。『エンヤ』と大声で応えます。2番車を曳くのは北海道から沖縄までの参加者、1091人『声が小さい!! 元気を出せ!! もう一度!!』などと檄を飛ばします。

縄の中には木遣りの若衆が揃いの法被を着込み、手には采(さい)を持ち、木遣りの歌を歌います。道ばたの観衆からも『エンヤ』『エンヤ』、少し照れくさかった始めとは異なりだんだん声が大きくなります。途中で休憩をとり木遣りの歌が入ります。今度は縄を上下させながらウェービンのように『エンヤ』『エンヤ』。木遣りの若衆が手招きします。『きっと采を振らせてくれるのだ』縄の中に入って『采』を手にも『エンヤ』『エンヤ』だんだん調子が出てきて『エンヤ』『エンヤ』。しかし『采』は重かった、どんどん重さが増してきて交代。

鳥居前の広場に到着、宮司からお木曳きのお礼の言葉。万歳・万歳・万歳、三唱して解団。外宮の垣内、玉砂利の上から参拝。古代にタイムスリップをしたような不思議な体験でした。

ご案内頂いた姫路神社の松田宮司、同行の40名の方々に心より感謝!! 感謝!!。



第六十二回 神宮式年遷宮 第一次お木曳行事  
神社参拝研修会 平成十八年六月四日 外宮到着



むらの鍛冶屋®

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>

<http://www.kanamonoya.co.jp/>

[ryou@memenet.or.jp](mailto:ryou@memenet.or.jp)

5月14日より 電話番号が変わりました。住所録を訂正してください。

新電話番号 079-234-1515

旧番号 0792-34-1515



何でもお気軽にお尋ねください!!